The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	医療的ケア児と家族を支援する訪問看護の質評価に関する研究
Author(s)	阪上, 由美
Citation	大阪大学, 2024, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/98754
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

様式３

論　文　内　容　の　要　旨

氏　名　（　阪上　由美　）	
論文題名	医療的ケア児と家族を支援する訪問看護の質評価に関する研究

論文内容の要旨

2021年に医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の施行が開始され，医療的ケア児及び家族を日常生活・社会生活を社会全体で支援する体制の整備が推進されている。日本の訪問看護の質評価は，職能団体が作成したガイドラインは存在するが，医療的ケア児と家族の特徴を十分に包含するものではない。そこで本研究では，医療の質を評価する「Structure」「Process」「Outcome」で構成されたDonabedianモデルを概念枠組みとし，医療的ケア児と家族を支援する訪問看護の質評価指標（The Home-visit Nursing Quality Indicators　for Children with medical complexity，以下、HNQICとする）を開発し，信頼性と妥当性を検証することで訪問看護と医療的ケア児の家族の双方が評価することが可能であるかを確認することを目的とした。

研究1では，医療的ケア児と家族の訪問看護実践知に基づくHNQICの評価指標原案を作成することを目的に，医療的ケア児への訪問看護経験が豊富な訪問看護事業所の管理者13人を対象に、 Donabedianモデルによる概念枠組に基づき半構造化面接法を実施し59評価指標を抽出した。これら59評価指標について小児訪問看護経験を有する22か所の訪問看護事業所を対象に，2回のデルファイ法により評価指標の重要性と表現のわかりやすさについて検討し，38評価指標のHNQICの評価指標原案を得た。

研究2では，HNQICの信頼性，妥当性を検証することを目的に，小児訪問看護経験を有する訪問看護事業所57か所を対象に，研究1の原案に4評価指標を追加したHNQIC案42評価指標について5段階リッカート法による調査を行った。 HNQIC案42評価指標の項目分析，クロンバックα係数，探索的因子分析，共分散構造分析を行い，「安全なケアのためのマニュアル整備（4評価指標）」，「訪問体制整備（2評価指標）」の2因子の「Structure」，「成長・発達の支援（12評価指標）」，「多職種との連携（7評価指標）」，「病院との連携や移行支援（2評価指標）」の5因子の「process」，「家族の生活状況変化（2評価指標）」，「子どもへの健康リテラシーの変化（2評価指標）」，「在宅生活継続の変化（3評価指標）」の3因子の「Outcome」からなる35評価指標のHNQICの信頼性，妥当性を確認した。

研究3では，HNQICの「Outcome」評価指標を医療的ケア児の家族が評価できる評価指標として活用可能かを検討することを目的に，訪問看護を利用している医療的ケア児の家族167人を対象に，HNQICの「Outcome」原案10評価指標を家族が評価できるよう表現を改変し，5段階リッカート法による調査を行い，クロンバックα係数，探索的因子分析，訪問看護利用満足度との関連を検討し，医療的ケア児の家族が評価できる「子どもへの健康リテラシーの変化（3評価指標）」，「家族の生活状況変化（2評価指標）」，「在宅生活継続の変化（3評価指標）」の3因子8評価指標の構造をもつOutcome8評価指標を確認した。

以上より，HNQICは訪問看護と医療的ケア児の家族の双方が評価する可能性のある汎用性のある評価指標であることが確認され，HNQICの普及により医療的ケア児と家族への支援の質向上に貢献できると考える。

様式７

論文審査の結果の要旨及び担当者

氏　名　（　阪上　由美　）			
論文審査担当者		（職）	氏　名
	主 査	教授	小西　かおる
	副 査	教授	神出　計
	副 査	教授	山崎　あけみ

論文審査の結果の要旨

2021年に医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の施行が開始され，医療的ケア児及び家族を日常生活・社会生活を社会全体で支援する体制の整備が推進されている。日本の訪問看護の質評価は，職能団体が作成したガイドラインは存在するが，医療的ケア児と家族の特徴を十分に包含するものではない。そこで本研究では，医療の質を評価する「Structure」「Process」「Outcome」で構成されたDonabedianモデルを概念枠組みとし，医療的ケア児と家族を支援する訪問看護の質評価指標（The Home-visit Nursing Quality Indicators for Children with medical complexity，以下、HNQICとする)を開発し，信頼性と妥当性を検証することで訪問看護と医療的ケア児の家族の双方が評価することが可能であるかを確認することを目的とした。

研究1では，医療的ケア児と家族の訪問看護実践知に基づくHNQICの項目原案を作成することを目的に，医療的ケア児への訪問看護経験が豊富な訪問看護事業所の管理者13人を対象に、 Donabedianモデルによる概念枠組に基づき半構造化面接法を実施し59項目を抽出した。これら59項目について小児訪問看護経験を有する22か所の訪問看護事業所を対象に，2回のデルファイ法により評価項目の重要性と表現のわかりやすさについて検討し，38項目のHNQICの項目原案を得た。

研究2では，HNQICの信頼性，妥当性を検証することを目的に，小児訪問看護経験を有する訪問看護事業所57か所の管理者を対象に，研究1の原案に4項目を追加したHNQIC案42項目について5段階リッカート法による調査を行った。HNQIC案42項目の項目分析，クロンバックα係数の算出，探索的因子分析，共分散構造分析を行い，「安全なケアのためのマニュアル整備（4項目)」,「訪問体制整備（2項目)」による2因子構造の「Structure」,「成長・発達の支援（12項目)」,「多職種との連携（7項目)」,「病院との連携や移行支援（2項目)」による3因子構造の「process」,「家族の生活状況の変化（2項目)」,「子どもへの健康リテラシーの変化（2項目)」,「在宅生活継続の変化（3項目)」による3因子の「Outcome」からなる全35項目のHNQICの信頼性，妥当性を確認した。

研究3では，HNQICの「Outcome」項目を医療的ケア児の家族が評価できる項目として活用可能かを検討することを目的に，訪問看護を利用している医療的ケア児の家族167人を対象に，HNQICの「Outcome」原案10項目を家族が評価できるよう表現を改変し，5段階リッカート法による調査を行い，クロンバックα係数の算出，探索的因子分析，訪問看護利用満足度との関連を検討し，医療的ケア児の家族が評価できる「家族の生活状況の変化（2項目)」,「子どもへの健康リテラシーの変化（3項目)」,「在宅生活継続の変化（3項目)」による3因子構造をもつ全8項目により医療的ケア児の家族が「Outcome」を評価できることを確認した。

以上より，HNQICは訪問看護と医療的ケア児の家族の双方が評価する可能性のある汎用性のある評価指標であることが確認され，HNQICの普及により医療的ケア児と家族への支援の質向上に貢献できる知見を示しており、博士の学位に値すると評価できる。